マスタープラン改定案について

令和８年９月１日

改定案の位置づけ

本改定案は、川湯温泉が世界水準のナショナルパークの主要滞在拠点を担っていくことを見据え、
従来のマスタープランを土台としながら、追加・調整が必要と考えられる要素を再提案するものです。
阿寒摩周国立公園の目指す世界水準のナショナルパークとは何か、滞在拠点として川湯温泉はどうあるべきかを明らかにすることから始め、各種施策において定められた指針を、観光客の視点から俯瞰的に再確認するという手法で検討を行いました。

【ポイント】
- 世界水準のナショナルパークのリサーチによる川湯温泉の位置づけ確認
- 観光客視点でのコンセプト立案
- コンセプトと各施策の関係性における一貫性の担保
- 実行計画の明確化

■改定を提案する章



はじめに …… 01

1. コンセプト
- 川湯温泉の推移 …… 06
- 川湯温泉エリアの現況について …… 07
- マスタープランコンセプト …… 08
- 川湯温泉エリアの再整備ボリューム検討 …… 09

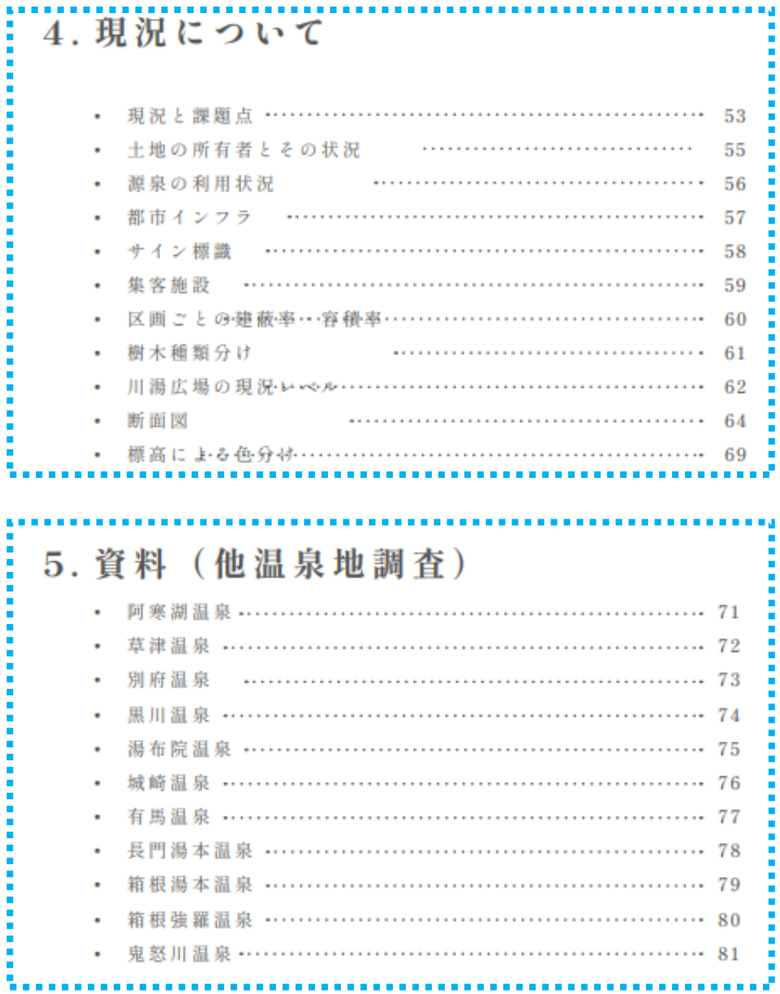
2. 川湯温泉エリアへ導入する体験・機能
- 川湯エリアへ導入する体験・機能の検討 …… 11
- 全体配置図 …… 12
- イメージパース全景 …… 13
- 導入機能①-⑦ …… 15
- イメージテナント …… 33
- デザインコンセプト …… 34

3. 改善計画策定
- 川湯温泉街らしい景観を創る為のルール化 …… 40
- エリア別改善事業 …… 41
- 改善計画スケジュール（概要版） …… 43
- エリア全体の開発シミュレーション …… 48
- まちづくり会社の組成について …… 49
- 川湯オープン会議構成イメージ …… 50

改定あり

改定あり

改定あり



4. 現況について
- 現況と課題点 …… 53
- 土地の所有者とその状況 …… 55
- 源泉の利用状況 …… 56
- 都市インフラ …… 57
- サイン標識 …… 58
- 集客施設 …… 59
- 区画ごとの建蔽率…容積率 …… 60
- 樹木種類分け …… 61
- 川湯広場の現況レベル …… 62
- 断面図 …… 64
- 標高による色分け …… 69

5. 資料（他温泉地調査）
- 阿寒湖温泉 …… 71
- 草津温泉 …… 72
- 別府温泉 …… 73
- 黒川温泉 …… 74
- 湯布院温泉 …… 75
- 城崎温泉 …… 76
- 有馬温泉 …… 77
- 長門湯本温泉 …… 78
- 箱根湯本温泉 …… 79
- 箱根強羅温泉 …… 80
- 鬼怒川温泉 …… 81

改定なし

改定なし

「はじめに」の改定内容

＜既存MP＞

観光資源



＜改定案＞

観光資源

＋

【次章より繰上げ・一部追加】
川湯温泉を取り巻く課題

【追加】
国外の国立公園との比較

【追加】
川湯らしい再生の方向性

マスタープランの前段として、そもそも根本的な課題は何なのか、対策として何故、どこに向かっていくべきなのかについて
すべてのステークホルダーの皆さまが納得感をもって共感できる課題の特定とビジョンの提示が必要ではないかと考えました。

観光資源、ステークホルダー構成、観光スタイルの変化、国外の国立公園との比較等、観光事業者としての視点から網羅的に分析を加えることで、
世界水準のナショナルパークの滞在拠点として独自の立ち位置を獲得するための「川湯らしい再生の方向性」を新たに提案します。

「1.コンセプト」の改定内容

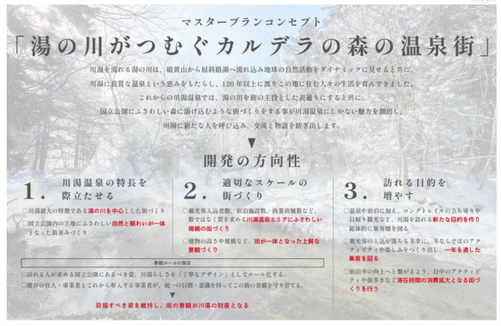
＜既存MP＞

川湯温泉を取り巻く課題

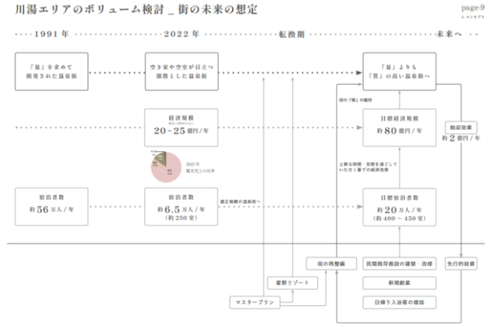




MPコンセプト



経済効果の想定



＜改定案＞

「はじめに」

【前章へ繰上げ】
川湯温泉を取り巻く課題

【追加】
川湯らしい再生の方向性

【追加】
MP対象範囲の拡張

【差し替え】
MPコンセプト
（体験性・魅力の観点より再整理）

【追加】
キービジュアル提案

コンセプトは、マスタープランの最上位の決め事の1つとして、まち全体のあり方を定める物差しとなる大方針を表現した言葉です。
観光を中心産業としたまちづくりを目指す川湯温泉では「来街客の体験視点」から川湯の魅力の方向性を考える必要があり、
本改定案では、世界水準のナショナルパークの滞在拠点として最も強く訴求すべき魅力を明確にし、コンセプトを再提案します。

また、「はじめに」で整理していますが、川湯温泉街単独ではなく周辺の自然資源も含めた一体的な体験を考えることが重要なため、
マスタープランの整備対象範囲を川湯温泉街周辺の自然資源までを含めて拡張して考えることを新たにご提案しています。

「2.川湯温泉エリアへ導入する体験・機能」の改定内容

＜既存MP＞

ハード整備メニュー総覧



導入機能・整備方針



デザインコンセプト



＜改定案＞

【追加】
エリアごとに目指す体験
（コンセプトの中でのエリアの位置づけ）

【更新】
導入機能・整備方針

×3つのエリア

＋

ハード整備メニュー総覧

本改定案では、拡張したマスタープランの対象範囲を硫黄山エリア、川湯温泉街エリア、屈斜路湖エリアの3つのエリアに分け、
コンセプトを実現するために目指す体験と、そのために必要な機能・整備方針を各エリアごとに整理し直しました。

硫黄山エリア、屈斜路湖エリアについては、新たに加えた整備範囲として質の高い自然体験のためのインフラ整備を提案しています。

川湯温泉街エリアについては、コンセプトに基づいて既存のマスタープランの導入機能を俯瞰的に確認し、
機能の取捨選択や、他エリアとの連動を強化するためのインフラ整備、導入機能ごとの整備方針の見直し等、
位置づけや整備方針の見直しを中心に網羅的な再調整を提案しています。

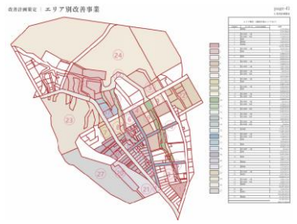
「3.改善計画策定」の改定内容

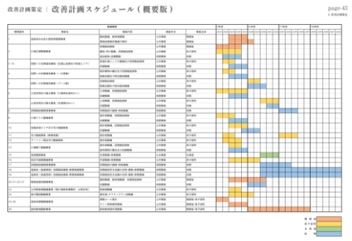
＜既存MP＞

景観遵守のためのルール



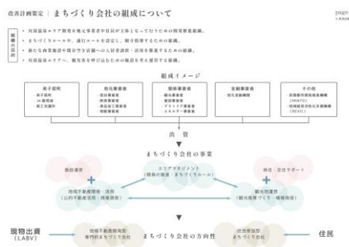
整備計画のステップ

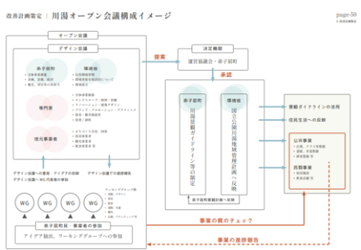






推進体制





＜改定案＞

景観遵守のためのルール

【更新】
整備計画のステップ

【再提案】
推進体制

＋

【追加】
エリマネ予算の捻出

【追加】
KPIの設定

3章は既存のマスタープランの構成を残し、主に前章までの計画内容変更の反映やスケジュール調整を中心に更新を行いました。

1点、推進体制については、ハードの初期整備だけでなく、整備されたハードを活用しどのようにPRしていくかに重点を置き直し、ソフト的な取り組みを推し進めていく観点も含めた推進体制を再提案しています。



川湯温泉まちづくり

マスタープラン改定案

観光資源①：日本最大のカルデラに抱かれる壮大な自然

















硫黄山より吹き出る硫化水素、火山灰の積層した土壌、地中から湧き出す火山性温泉など、
カルデラの特異な環境に起因して発生した独自の形態・景観をもつ個性的な自然資源群が
それぞれ、日本最大のカルデラゆえの圧倒的なスケールと迫力をもって広がっている

観光資源②：歴史背景と特徴的な泉源の集積







硫黄資源と特徴的な温泉に集った人々のための湯治場としての歴史背景や
町内の至る所で湧いた温泉が収束して温泉川として街中を流れる川湯温泉の原風景など
他の温泉街にはない、川湯温泉ならではの個性がある

観光資源③：特異な環境が生み出す自然の造形美








厳冬期には-20℃を下回る寒冷な気候がカルデラの壮大な自然と組み合わさることで、他にない特異な景観が発現する

観光資源④：多様なアクティビティ









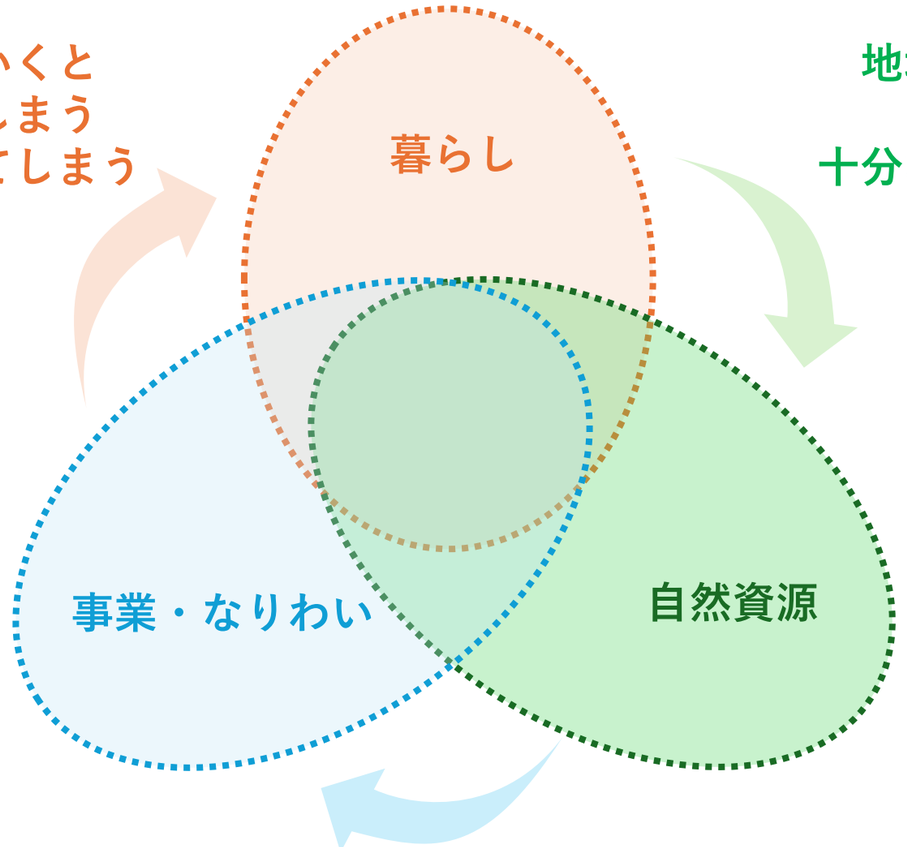




広大な自然のフィールドを舞台として様々な自然体験の可能性が開拓されており
現在は個々の事業者レベルに留まっているものの、複合的な滞在体験として打ち出すことができれば大きな魅力になり得る

川湯温泉を取り巻く課題①：ステークホルダーの混在による複雑な利害関係

地域内の飲食・物販店舗等が減っていくと
地域住民の生活環境の質が下がってしまう
従業員が地域を離れるため住民も減ってしまう



地域住民や税収が継続的に減っていくと
自然資源の維持・活用のために
十分な人・お金を投資できなくなってしまう

川湯最大の武器である自然資源を活かせず宿泊客が減っていくと
民間事業者が減益し、店舗運営や設備・人員の維持が難しくなってしまう

**川湯温泉では複数のステークホルダーの利害関係が相互に絡み合っているため、
それぞれの視点を高いレベルで両立させる姿を模索する必要がある**

川湯温泉を取り巻く課題②：旅行スタイルの変化

	従来		目指す姿
旅行スタイル	団体ツアー ・ 広域周遊型	▶	個人予約 ・ 拠点滞在型

来街者を川湯に長時間滞在（連泊）させることで
川湯の宿・レストラン・店舗に着実にお金が落ちる状態をつくる

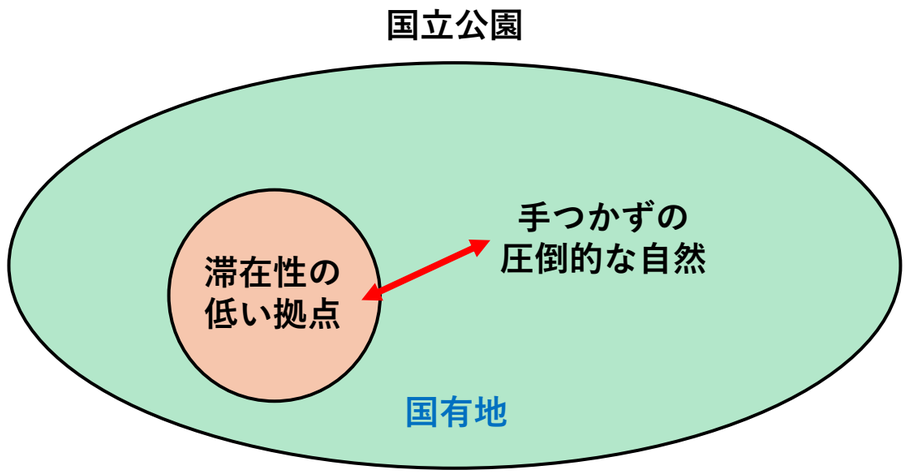
ポテンシャルの高い自然資源を活用したエコツーリズム型観光地を目指す

国外の国立公園との比較

アメリカ／Yellowstone

- 手つかずの場所を**国有地**として国立公園に指定
- 景観を壊さぬ様、あとから**最低限の建物**等の施設を設けている



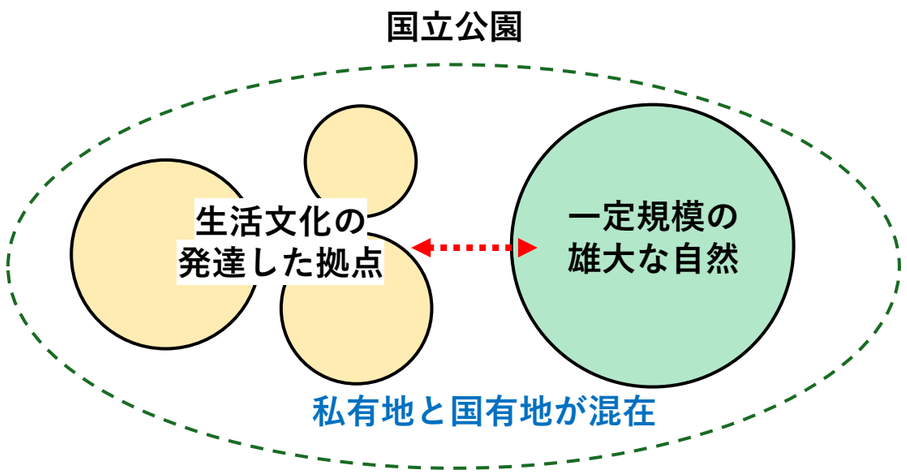


人工物の限られた自然の世界が圧倒的な規模で存在
拠点が自然に取り込まれ自然観光のための拠点になっているが、
滞在拠点はくつろげる環境ではなく滞在性は高くない

日本／阿寒摩周

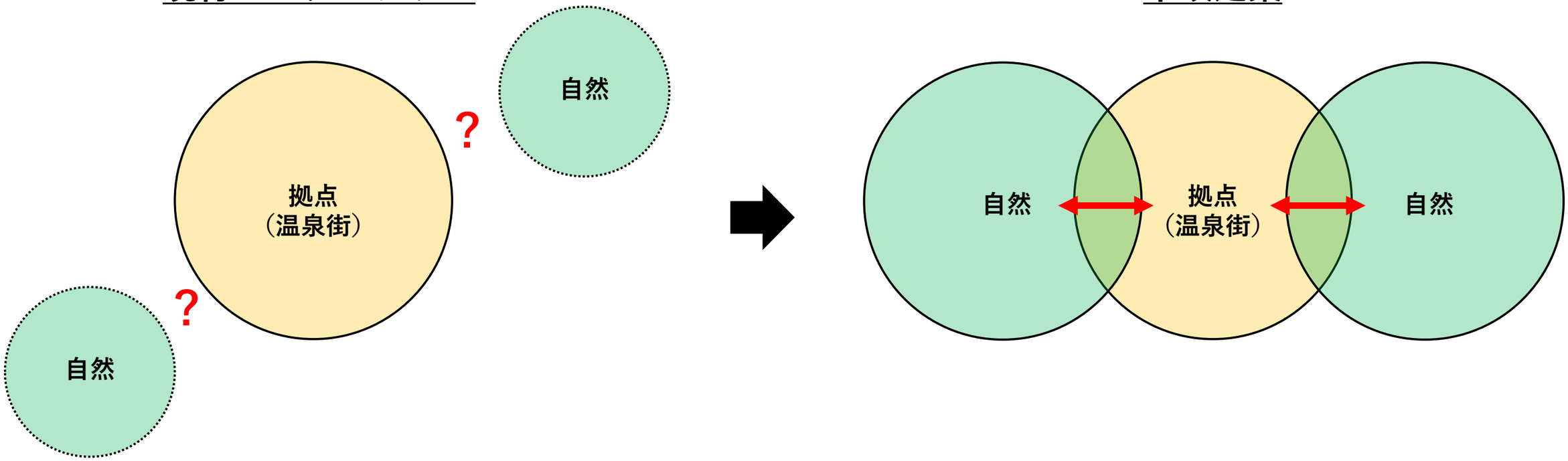
- すでに**私有地**、街となっている場所も含めて国立公園に指定
- 国立公園化より**先に生業が存在しており**、景観との共存が必要





日本屈指の大規模な自然と共存して一定の人のなりわいが存在
滞在拠点の温泉街と自然観光との連動が不十分なため、
それぞれの高いポテンシャルを活かし切れていない

川湯らしい再生の方向性



阿寒摩周国立公園の中で、川湯温泉は拠点の滞在性、自然資源共に最も大きなポテンシャルを持っている。

それぞれの魅力を強化しつつ、温泉街と自然を空間的・精神的に「つなぐ」ことが

日本の国立公園の中にある川湯温泉らしい再生の方向性である。

既存のマスタープランでは、自然資源の存在については触れられているものの、

マスタープランの中での自然資源の位置づけの提示や、

自然資源の活用を促進する観点での整備方針の提示が不足していたため、本改定案にて再提案を行う

マスタープランの対象範囲の拡張

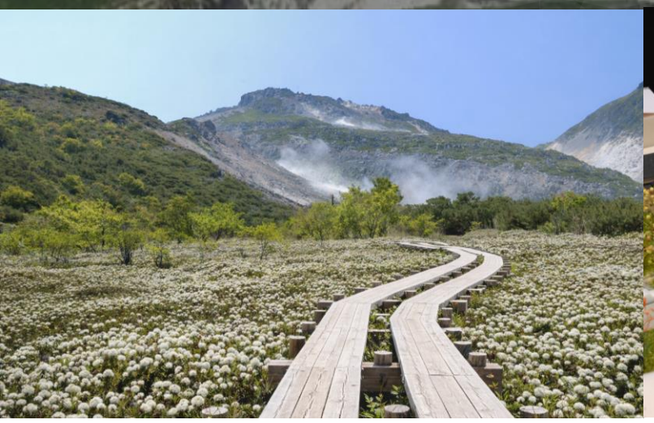


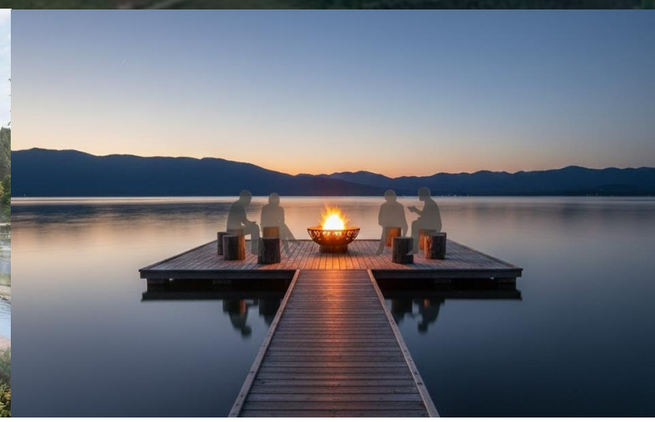
地中・地上を流れる温泉川が繋ぐ硫黄山～川湯温泉～屈斜路湖畔を「KAWAYU ONSEN」と定義し、
マスタープランの対象範囲に設定すると共に、日本最大のカルデラで一連の自然体験ができるエリアとして整備する

マスタープランコンセプト

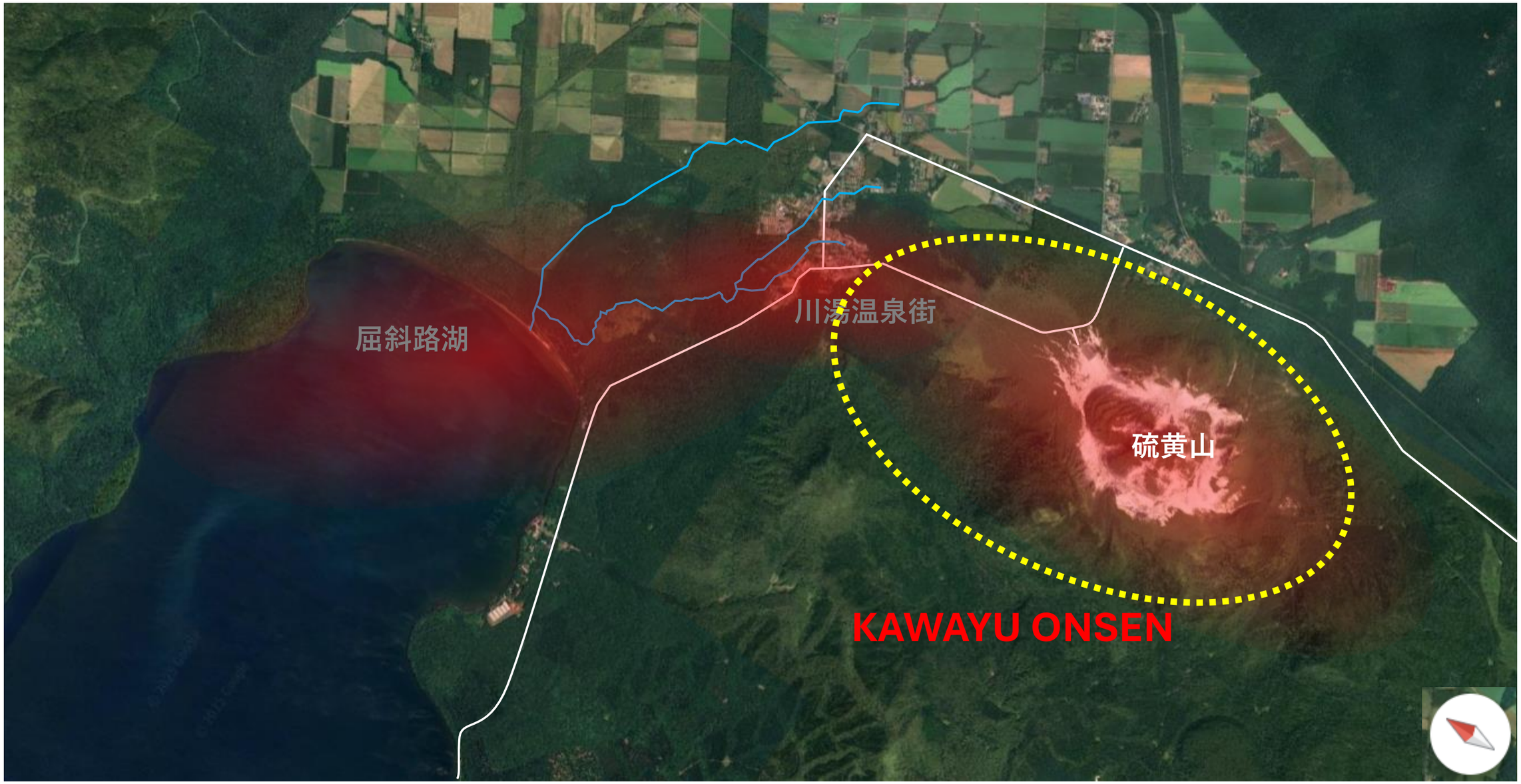
日本最大のカルデラの鼓動を感じる

3万年前の大噴火によって形成された東西26km、南北20kmという日本一の規模をもつ屈斜路カルデラ。
唯一の活火山である硫黄山は絶え間なく噴気を上げ、麓では無数の泉源から強酸性の温泉が湧き出る。
束ねられた泉源はやがて川となってカルデラの窪地へと流れ込み、日本最大のカルデラ湖でもある雄大な屈斜路湖の景観を形成する。
来訪者は屈斜路カルデラを象徴するこの特別なエリアを生身で歩き、
永い時をかけて形成されてきた自然の厳しさや美しさに触れる中で、今なお活動を続ける屈斜路カルデラの鼓動を体感する。



【A】硫黄山エリアの整備




ATOSANUPURI
硫黄山エリア
絶え間なく吹き出る硫化水素の噴気により
通常の植物は生育できないような過酷な環境下で
噴気に耐え忍ぶようにしてせめぎ合う植生のあり様から
カルデラの自然の力強さを体感するエリア

目指すべき硫黄山エリアの体験



川湯温泉街からの散策路を魅力付けし高い求心力を持たせることにより、滞在時間の長い散策体験の利用者を増大させる

川湯温泉の源であるアトサヌプリに対する畏敬の念を感じる設えとし、屈斜路カルデラの象徴としての硫黄山を取り戻す

硫黄山エリアの整備のポイント

つつじが原自然探勝路をベースに魅力的な体験動線を整備



・植物に覆われた裸でない硫黄山を眺望するハイマツデッキを第1目的地、大迫力の噴煙と対峙する地点を第2目的地とし、
導入から各目的地までの散策を一連の自然体験として楽しめるよう、つつじが原自然探勝路を改修し「硫黄山原生林ルート」を整備する

・本来の畏れ多い自然資源への回帰を目指し、駐車場などの人工物は最大限縮小し、歩行経路は植生に影響を与えない舗装上に制限する

整備： 導入部分の課題と改善策の選択肢





- 自然探勝路の入口が分かりづらく、かつ木が極端に密集して侵入を拒絶するような印象を与えているため、
  手前から段階的な密度で緑地を復旧することにより、硫黄山原生林ルートの導入として迎え入れられるような魅力的な歩行動線を整備する
- 導入部分は温泉街のコア動線へと接続し、温泉街の利用客が自然に足を運ぶような連続性を持たせる
- ルート改修に伴い、入口部分のサイン位置や内容についても見直しを行う

整備： 散策歩道の課題と改善策の選択肢







- 希少な群生林や硫黄山を保護するとともに、荒天後に歩けなくなってしまう事象への対策として、木道などによる散策歩道の整備を行う
- 整備のもう一つの効果として、触れると壊れかねない自然の繊細さや、人による自然への敬意を感じさせる空間演出としての機能も狙う
- 温泉街→自然のグラデーション→硫黄山という一連の自然体験に最後まで人工物が邪魔をしないよう、
  既存ルート終盤に対面する人工的なアスファルトの駐車場を迂回する形で経路を見直し、クライマックスの硫黄山との対面を引き立てる

整備： 駐車場・アクセス経路の課題と改善策の選択肢



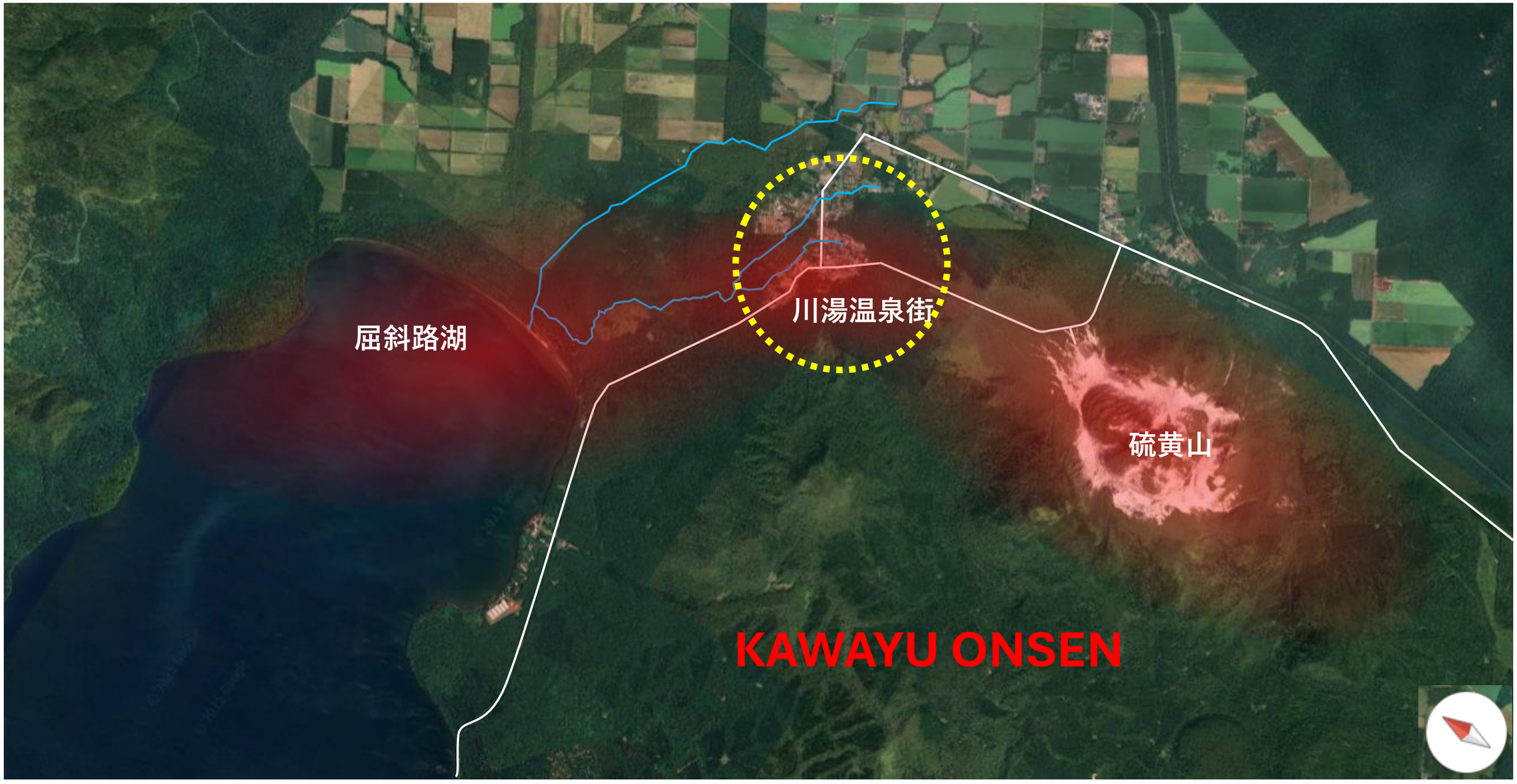


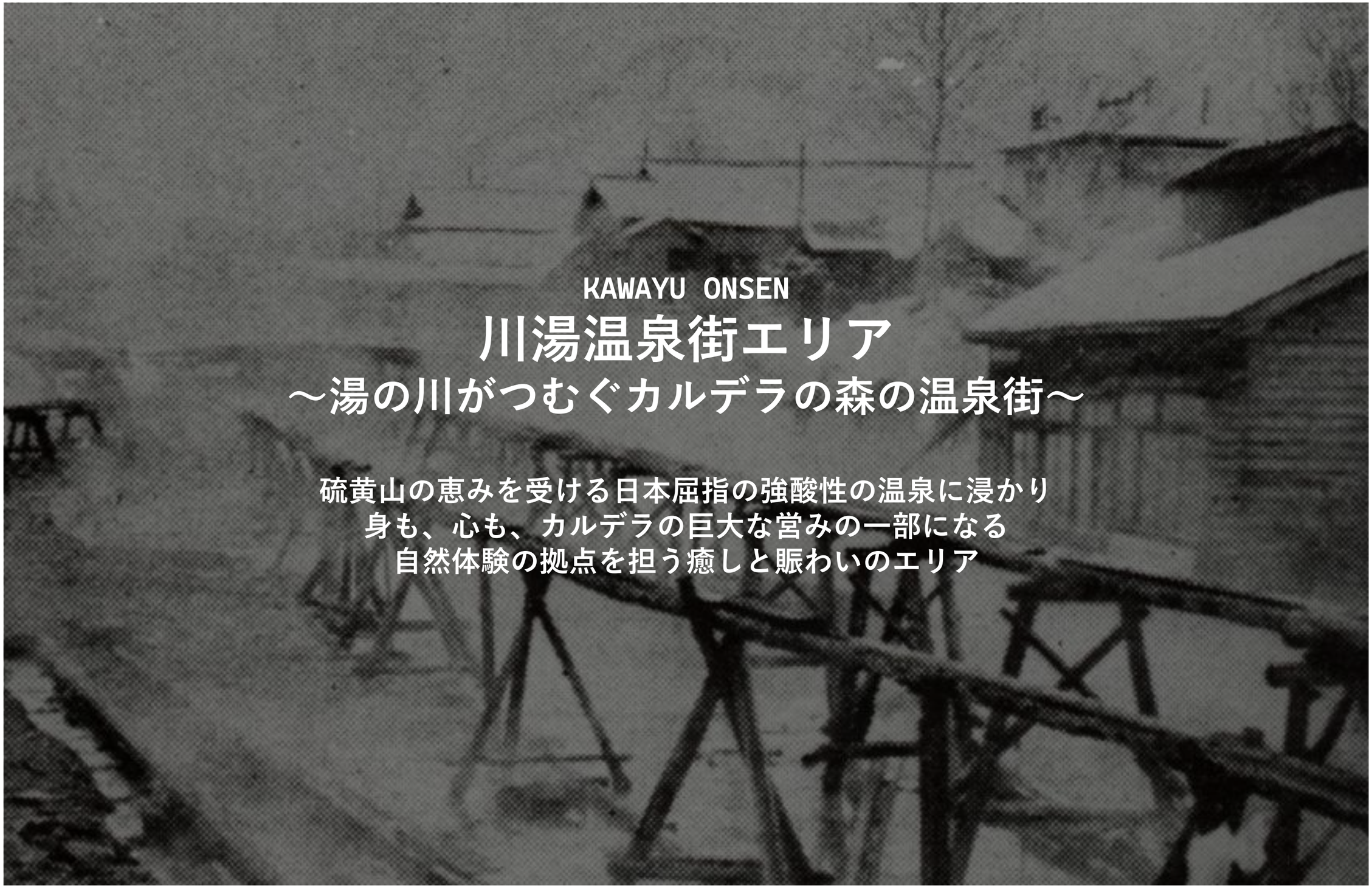
例えば散策路の自然体験を阻害してしまっている駐車場の規模縮小や川湯温泉街から硫黄山への車動線の制限の検討など、

散策路の魅力拡大だけでなく車利用を制限する側面からも、車観光→徒歩観光への転換を後押しする施策を検討する

（※具体的な整備内容は今後下位計画にて検討）

【B】川湯温泉街エリアの整備





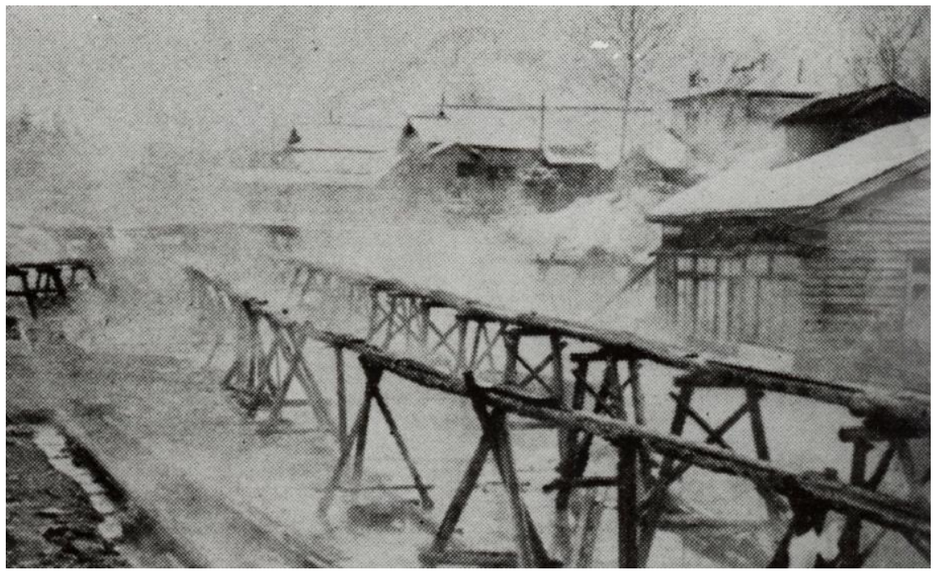
KAWAYU ONSEN

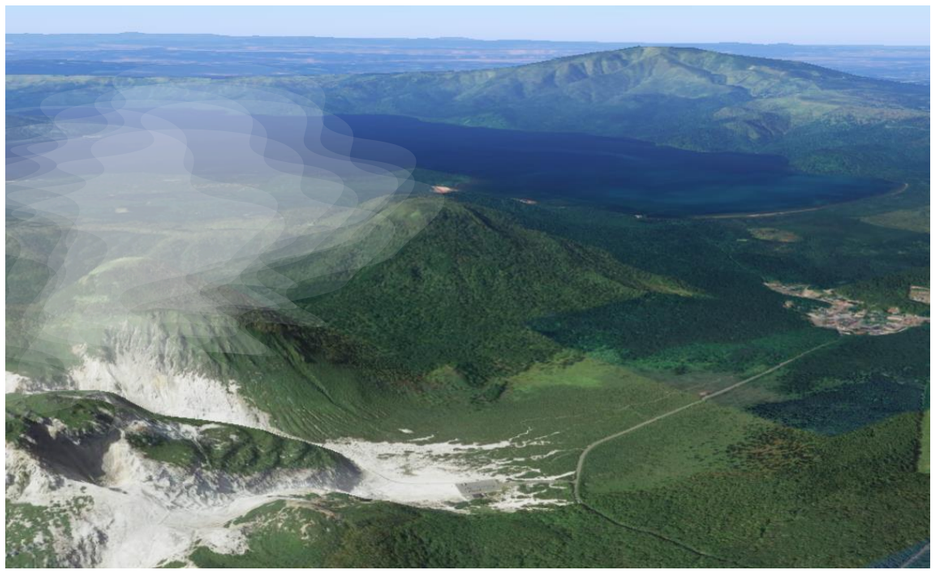
川湯温泉街エリア

～湯の川がつむぐカルデラの森の温泉街～

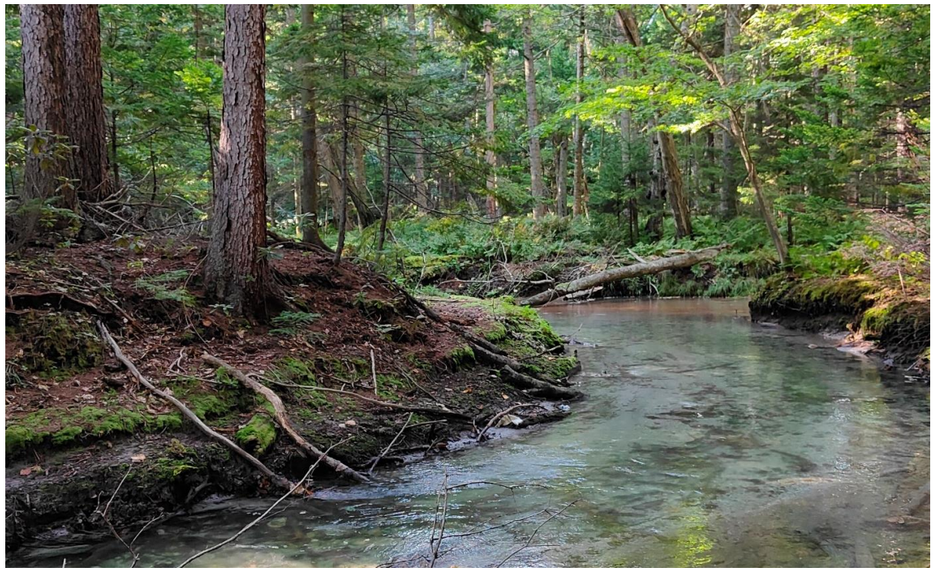
硫黄山の恵みを受ける日本屈指の強酸性の温泉に浸かり
身も、心も、カルデラの巨大な営みの一部になる
自然体験の拠点を担う癒しと賑わいのエリア

目指すべき川湯温泉街の体験







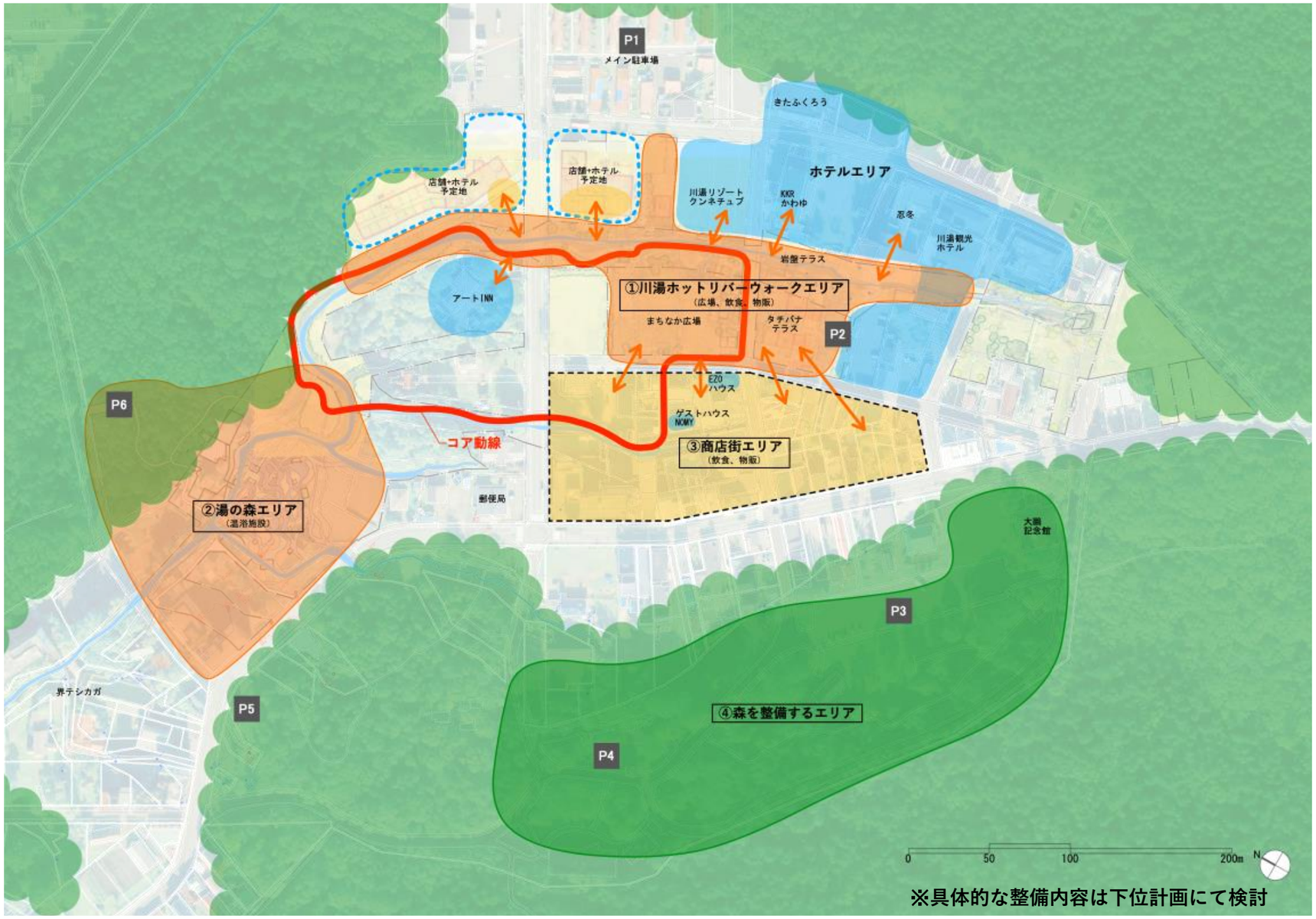


人のなりわいが息づく情緒的な湯治場としての顔、カルデラの大自然に囲まれた滞在拠点としての顔

川湯温泉の2つの顔を温泉川沿いに歩いて巡る体験を基軸に、体験をまちに分散させ、必然的に長時間滞在するような温泉街を目指す

川湯温泉街の整備のポイント

特徴的な機能をもった2つの居場所を核とした回遊を創出



※具体的な整備内容は下位計画にて検討

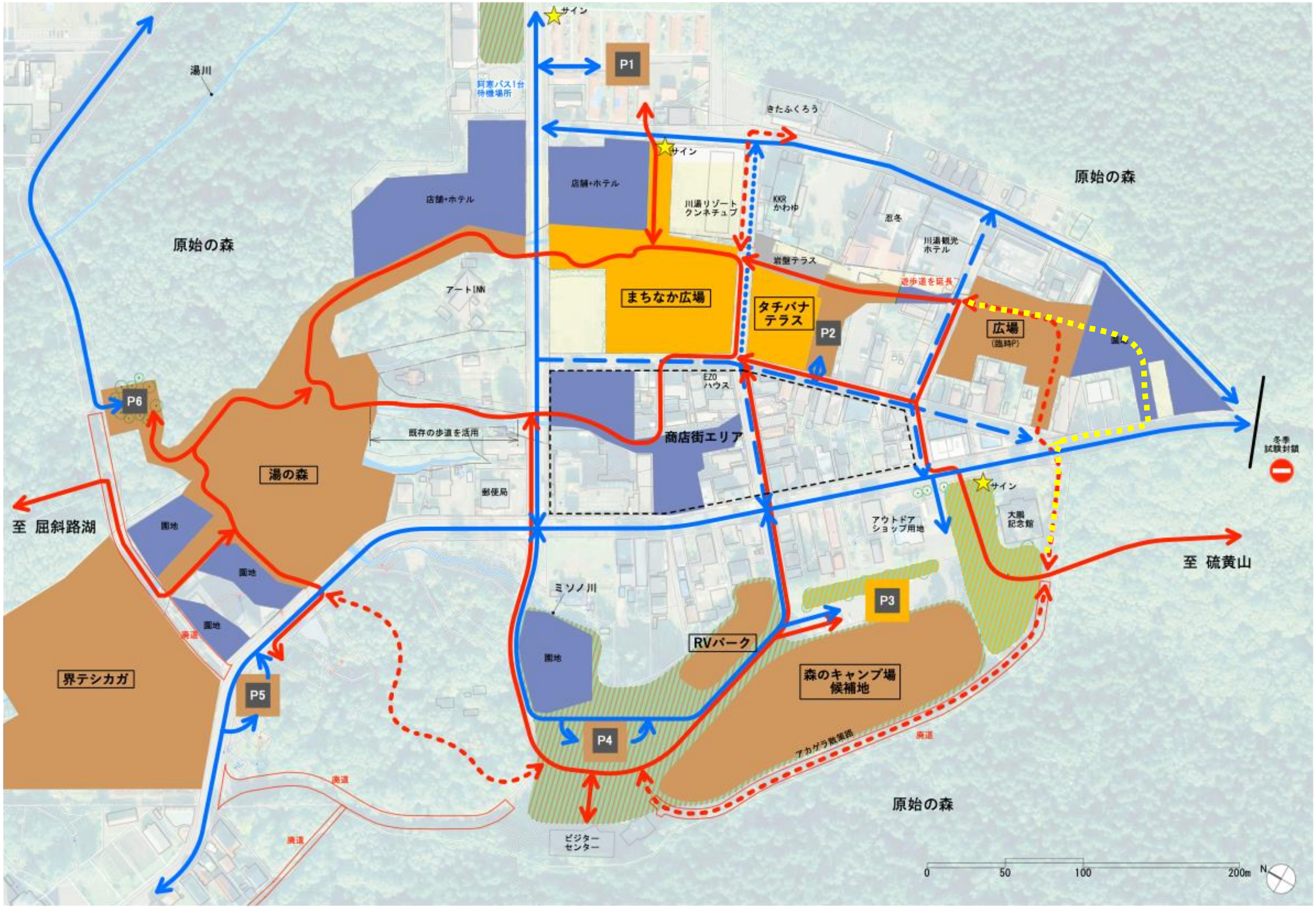
- 温泉川上流沿いのエリアを「川湯ホットリバーウォーク」と総称し、温泉川を中心に過ごす人々の活気でにぎわう湯治場の象徴として、人々が集い催しなどもできる広場の機能や、交流とにぎわいを生む商業機能を集積させる

- 温泉川下流の合流地点には、カルデラの豊かな自然に囲まれた湯治場の象徴として、森の中で湯治滞在ができる温浴施設を計画する

- 上記2つに従来の商店街エリアを加えた3つのエリアを楽しく歩いて回遊できるよう、これらを温泉川沿いに結ぶコア動線を整備する

- コア動線と対極に位置するビジターセンター周辺は、人為的な活気と離れ、より深く自然を感じられるよう森を整備するエリアとして設定する

整備計画の全体像


湯川
阿寒バス1台
待機場所
サイン
P1
きたふくろう
サイン
店舗+ホテル
店舗+ホテル
川湯リゾート
クンネチュプ
KKR
かわゆ
忍冬
川湯観光
ホテル
原始の森
原始の森
岩盤テラス
逆歩道を延長
アートINN
まちなか広場
タチバナ
テラス
P2
広場
(臨時P)
EZO
ハウス
P6
既存の歩道を活用
商店街エリア
湯の森
郵便局
冬季
試験封鎖
サイン
至 屈斜路湖
園地
園地
園地
アウトドア
ショップ用地
大鵬
記念館
至 硫黄山
ミソノ川
P3
廃道
RVパーク
界テシカガ
P5
森のキャンプ場
候補地
園地
P4
アカゲラ散策路
廃道
廃道
廃道
原始の森
ビジター
センター
0
50
100
200m
N

整備： 温浴施設「湯の森」の新設　※旧「川湯広場」を名称変更











・下流の温泉川が合流するエリアに、森の中の温泉川に滞在する温浴施設を整備する

・更地より復旧した森の中に最小限の居場所を挿入することにより、自然の延長線にある居場所とする

・湯から上がった森に居場所を設けたり、温泉熱で体を温めたりすることで、長く滞在する体験を計画する

・寒冷地ならではの湯気の表情が、自然現象の迫力や美しさを感じさせるキービジュアルとなる

整備：「まちなか広場」「タチバナテラス」の新設











軽井沢星野エリアHPより引用





長門湯本温泉HPより引用

・温泉川上流沿いに設定する「川湯ホットリバーストリート」に、情緒的な温泉街の顔となるにぎわいの要素を整備する

・来街者が最初に対面するエリアには、広場空間「まちなか広場」を設け、街の顔として季節の催しなどにも活用すると共に既存のホテル、店舗街の中心となる配置から、泊食分離型温泉街のハブとしてまちを繋ぎ合わせる役目も担う

・広場の隣には、橘屋の既存建物を改装したテナント店舗施設「タチバナテラス」を整備し、特産品の物販、カフェなど、思い思いの過ごし方で温泉川沿いに滞在できるよう複数の用途を用意し、賑わいを創出する

・川湯ホットリバーストリートは下流側の店舗新設や上流側の岩盤テラスの延伸など、将来的に拡張的な発展を想定する

整備： キャンプ場の新設

○中心エリア内の緑化と賑わいづくりを合わせて行うため、キャンプ場の整備を行う。

○川湯温泉に入れるキャンプ場として、温泉宿への目的客の他に、屈斜路湖（和琴・砂場）などと連動したキャンプ利用客の取込みを行い、川湯への新たな集客目的をつくり出す。

○当キャンプ場が、周辺エリアのカヌーやフィッシング、トレイルなどの道東のアクティビティの拠点となる。

○キャンプ場は、広くニーズを取り込むため、キャンピングカーユーザーが利用するRVパークと、テント泊をメインとしたウォークインキャンプ場の2種を設置する。


RVパーク

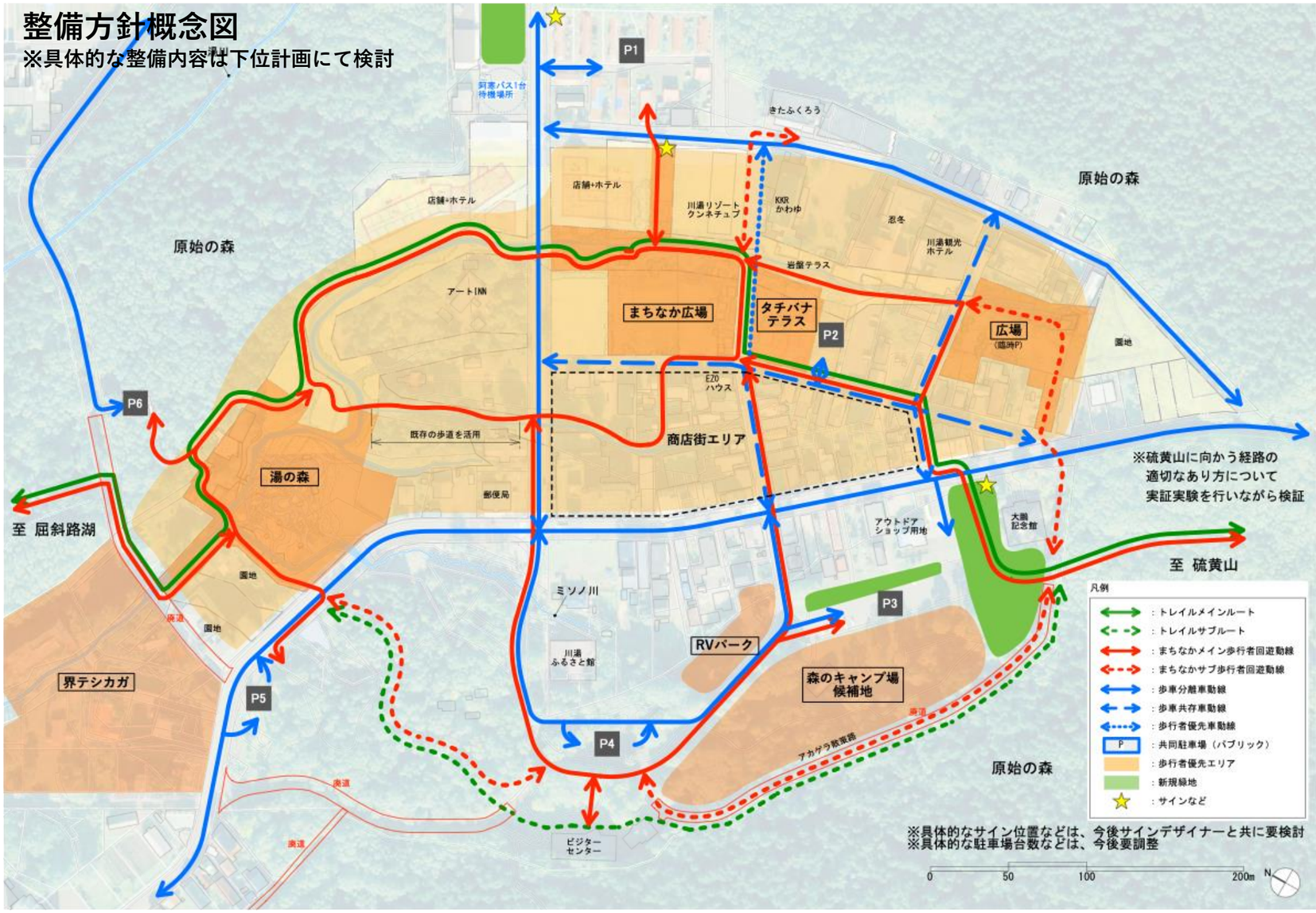

ウォークイン


RVパーク


ウォークイン


ウォークイン

整備： 車を感じない歩行者動線計画



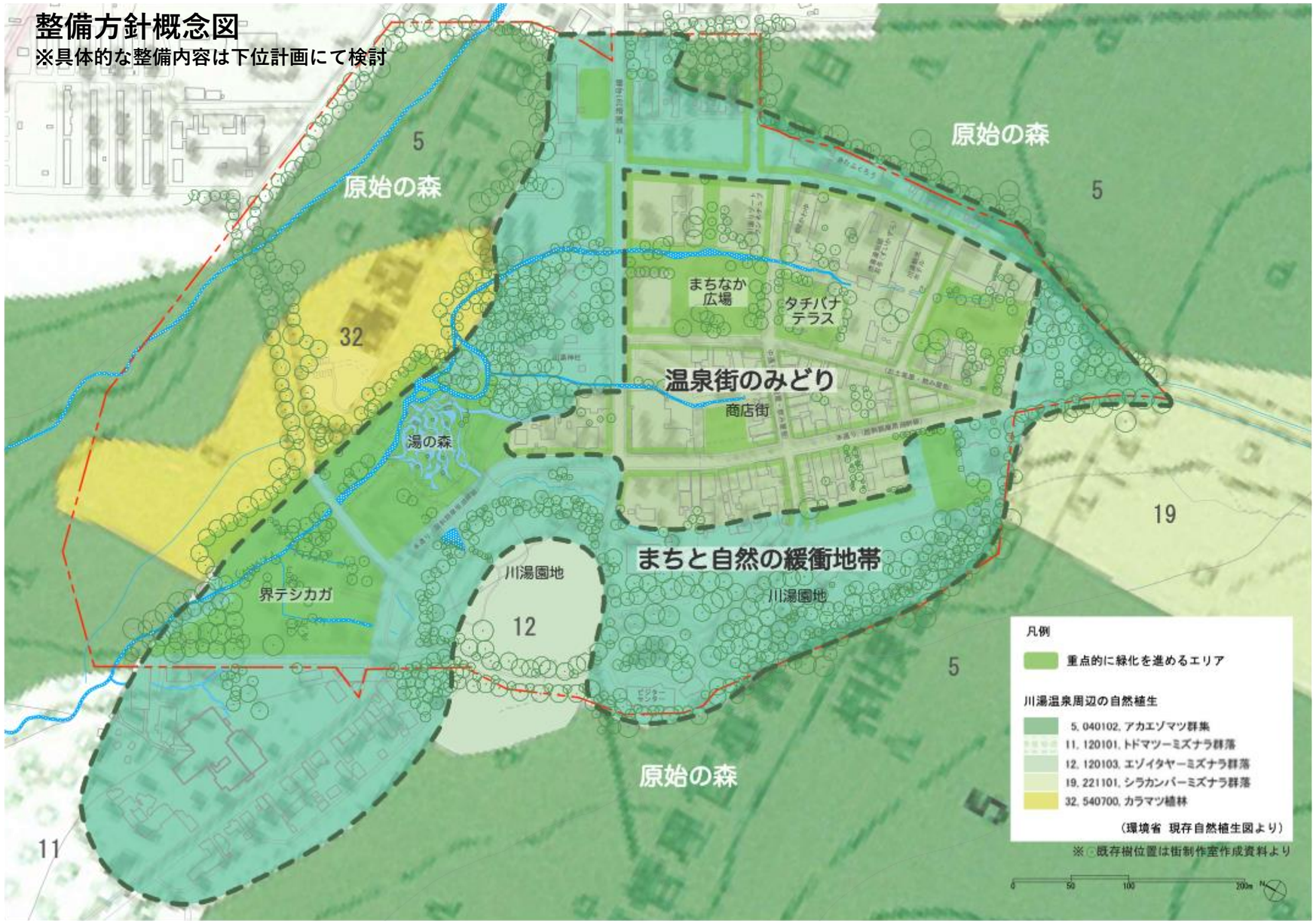
・温泉街沿いのコア動線＋縦動線は
歩行者中心、横動線は車両の動線
として整理することで歩者分離を
実現しながら車のアクセスを担保する

・日帰り利用客用の駐車場は町の
外延部に配置し、街中の車の通行量を
抑制する

・街の中央にある商店街エリアの
既存客の利用の観点から、中央に
店舗利用者専用駐車場を配置する

・駐車場付きの店舗や住居の
駐車区画も、目立たないよう景観に
配慮した配置とする

整備： 自然との連続した街並みを復旧する緑化計画



・廃墟、空き地、歩行動線沿いなどについては重点的に緑化を進め、自然とのつながりを感じられる街並みを復旧する

・原始の森に近づくほど自生種のみに絞られるよう、樹種についても段階的な制限を設定する

・温泉街のみどりの推奨樹種については「川湯温泉街　景観ガイドライン」を参照

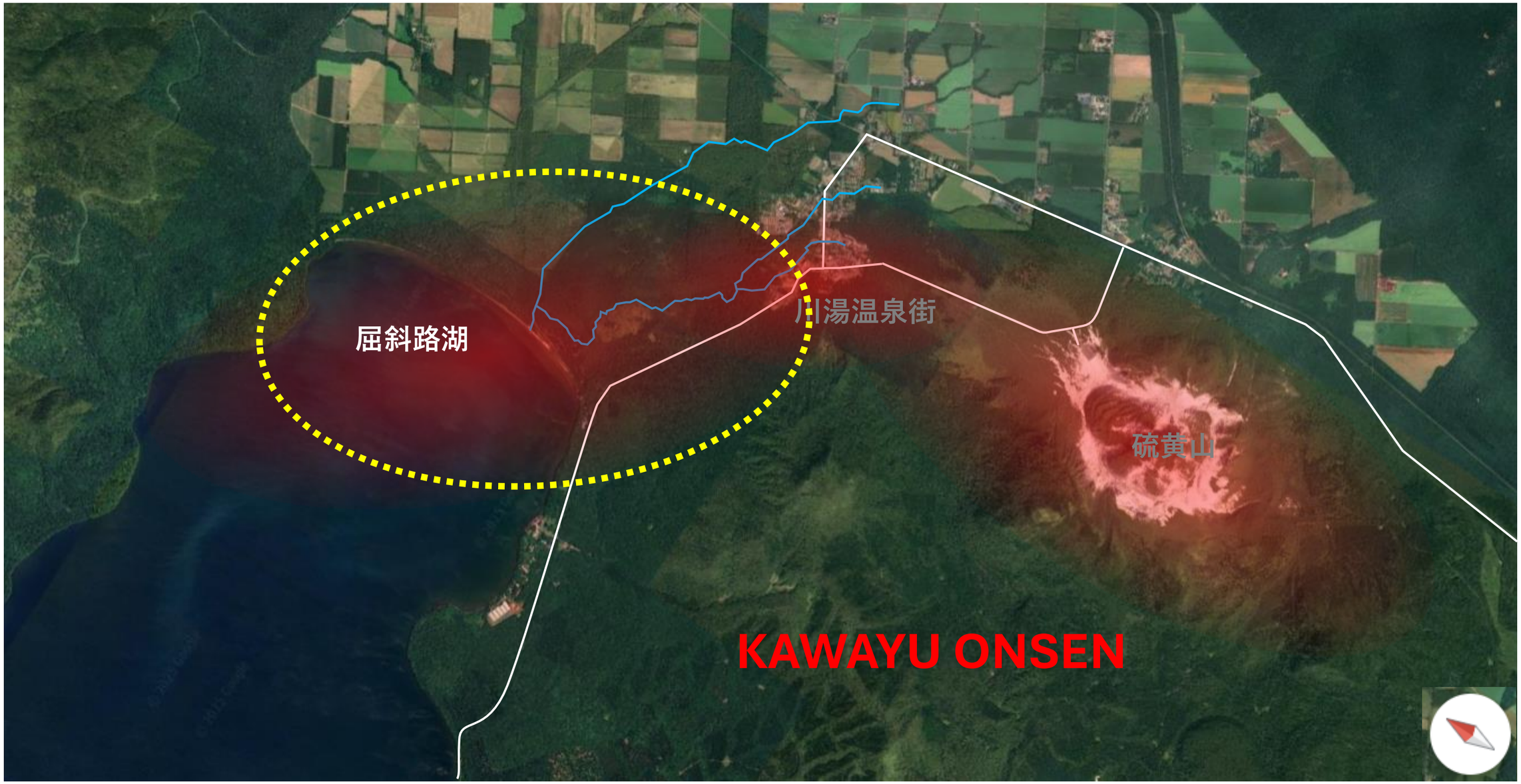
整備： ビジターセンターの活用拡大





・マスタープランのコンセプト見直しに合わせ、ビジターセンターの展示内容についても全体のコンセプトに沿う内容へ調整する
・認知や利用が十分になされていないガイドツアーのツアーデスクとしての位置づけの活用促進を図る

【C】屈斜路湖エリアの整備





KUSSHARO

屈斜路湖エリア

屈斜路カルデラの最も深い窪地に広がる巨大な湖
かつての火山活動に伴う火山灰で埋め立てられて生じた湖畔の森や湿地
森を流れ出た温泉川が注ぐ穏やかな湖面から
カルデラの活動の静かな余韻を体感するエリア

目指すべき屈斜路湖エリアの体験





自然資源として高いポテンシャルを持ちながら人目に触れてこなかった温泉川下流の原生林と湖畔に居場所を確保
人工物の一切ない壮大な景色の中心で、雄大さの中に繊細に刻まれた屈斜路カルデラの自然美に出会う最上級の自然体験を提案する

屈斜路湖エリアの散策ルート設定

ありのままの自然に触れて歩くための最小限のインフラを整備

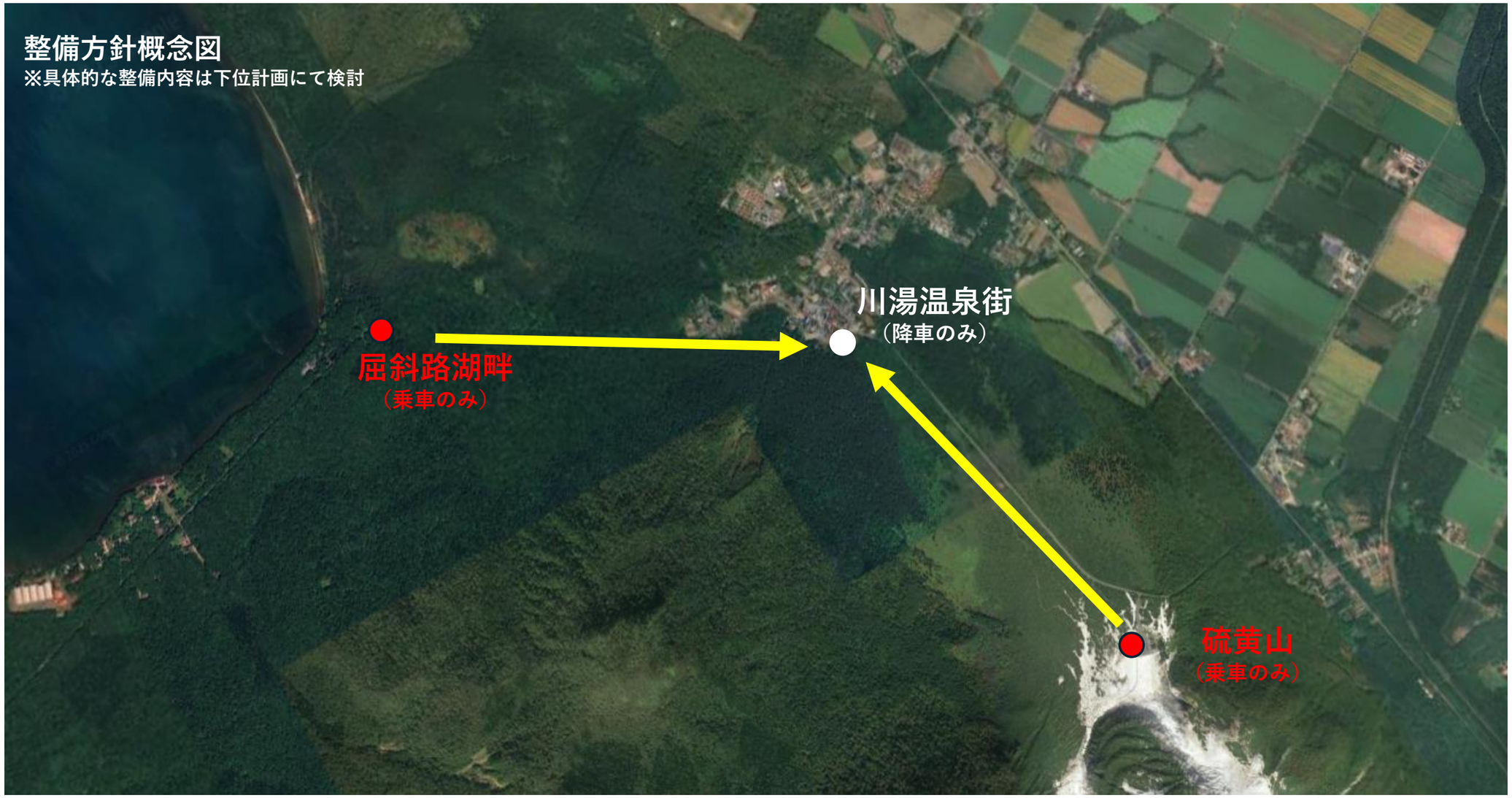







・川湯温泉街から屈斜路湖へと続く原生林に自然散策路「温泉川湿原ルート」を新しく整備する
・安全な道の開拓、休憩所の確保などにより、原始の自然を生身で歩き、雄大な湖畔で静かな時間を過ごす体験を提案する
（※具体的な整備内容は下位計画にて検討）

整備： 自然散策を補助するモビリティの整備



・2つの自然散策路の復路の補助としてバス便等モビリティによる送迎を確保
・適切な時間をかけて自然体験を満喫できるよう、バス便は復路専用として運行（屈斜路湖畔・硫黄山は乗車のみ、川湯温泉街は降車のみ）

整備： 自然の非日常感を阻害するサインなどの改善



1


4


7



2



5



8



3

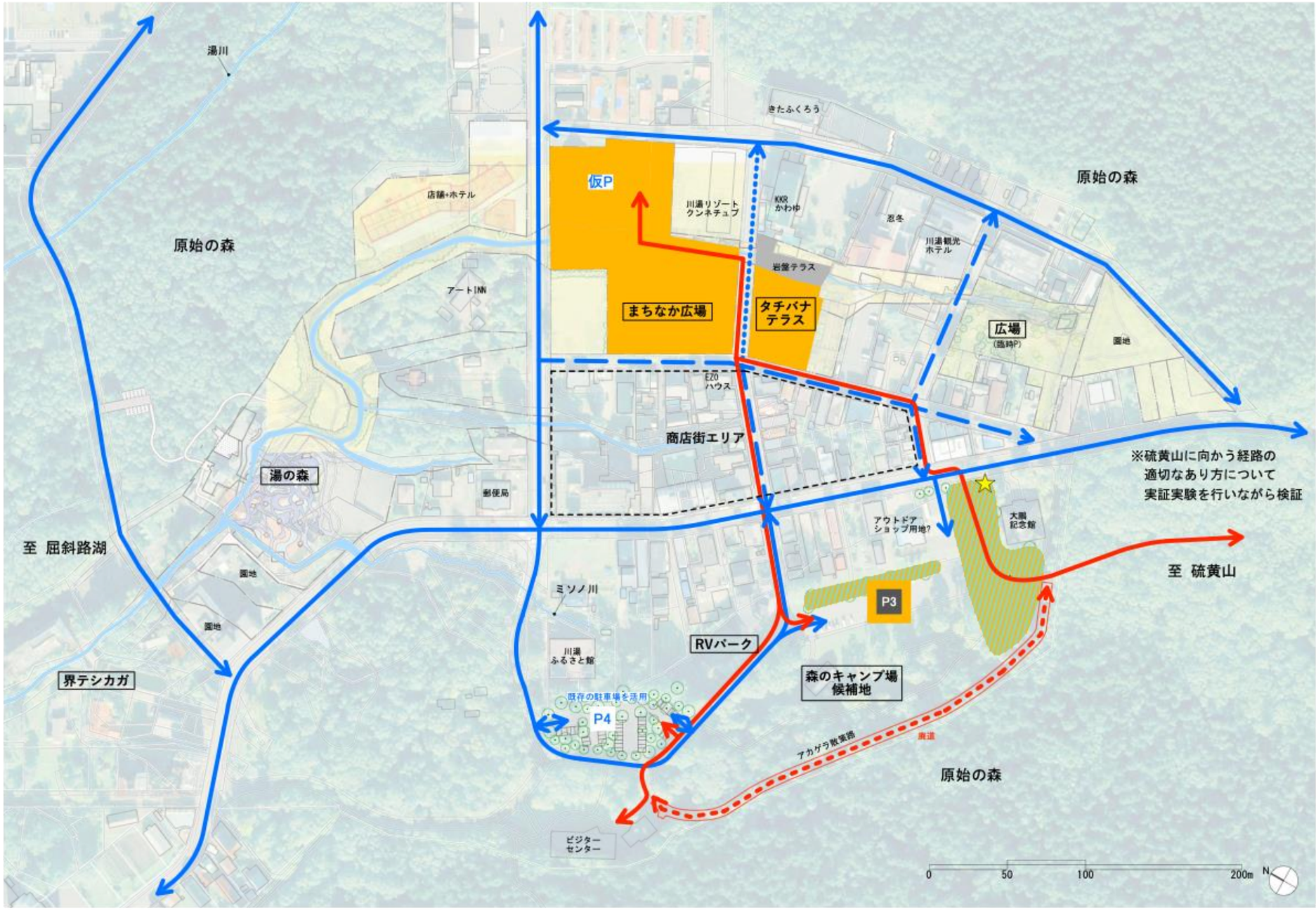

6



9

・統一感無く乱立しているサインなどが国立公園の風情を損ねているため、 弟子屈町の景観ガイドラインに則り、
世界水準のナショナルパークの滞在拠点にふさわしい意匠へと順次見直しを行う

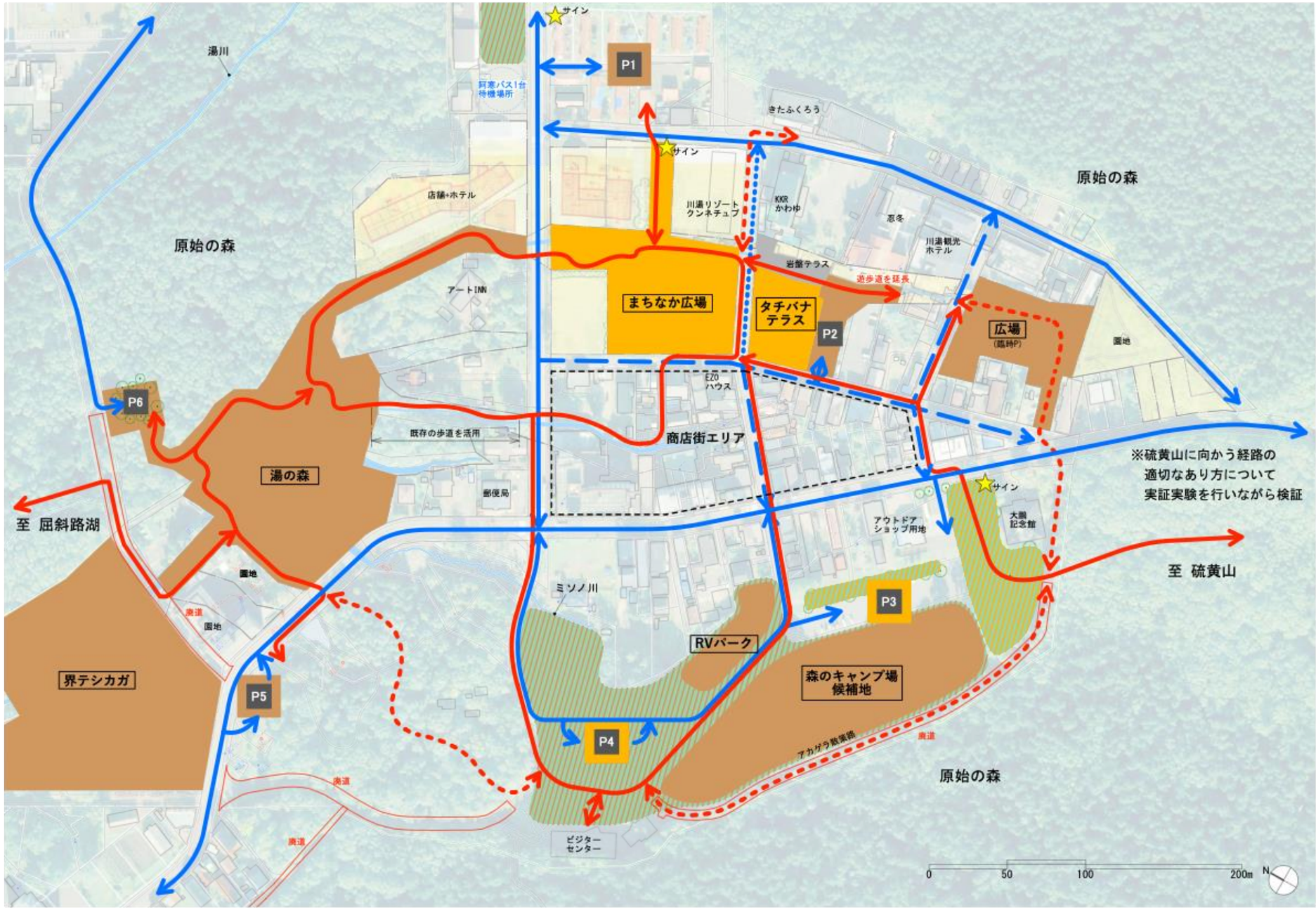
Step1（2028頃想定）



凡例

- ：step1整備範囲
- ：step2整備範囲
- ：step3整備範囲
- ：まちなかメイン歩行者回遊動線
- ：まちなかサブ歩行者回遊動線
- ：歩車分離車動線
- ：歩車共存車動線
- ：歩行者優先車動線

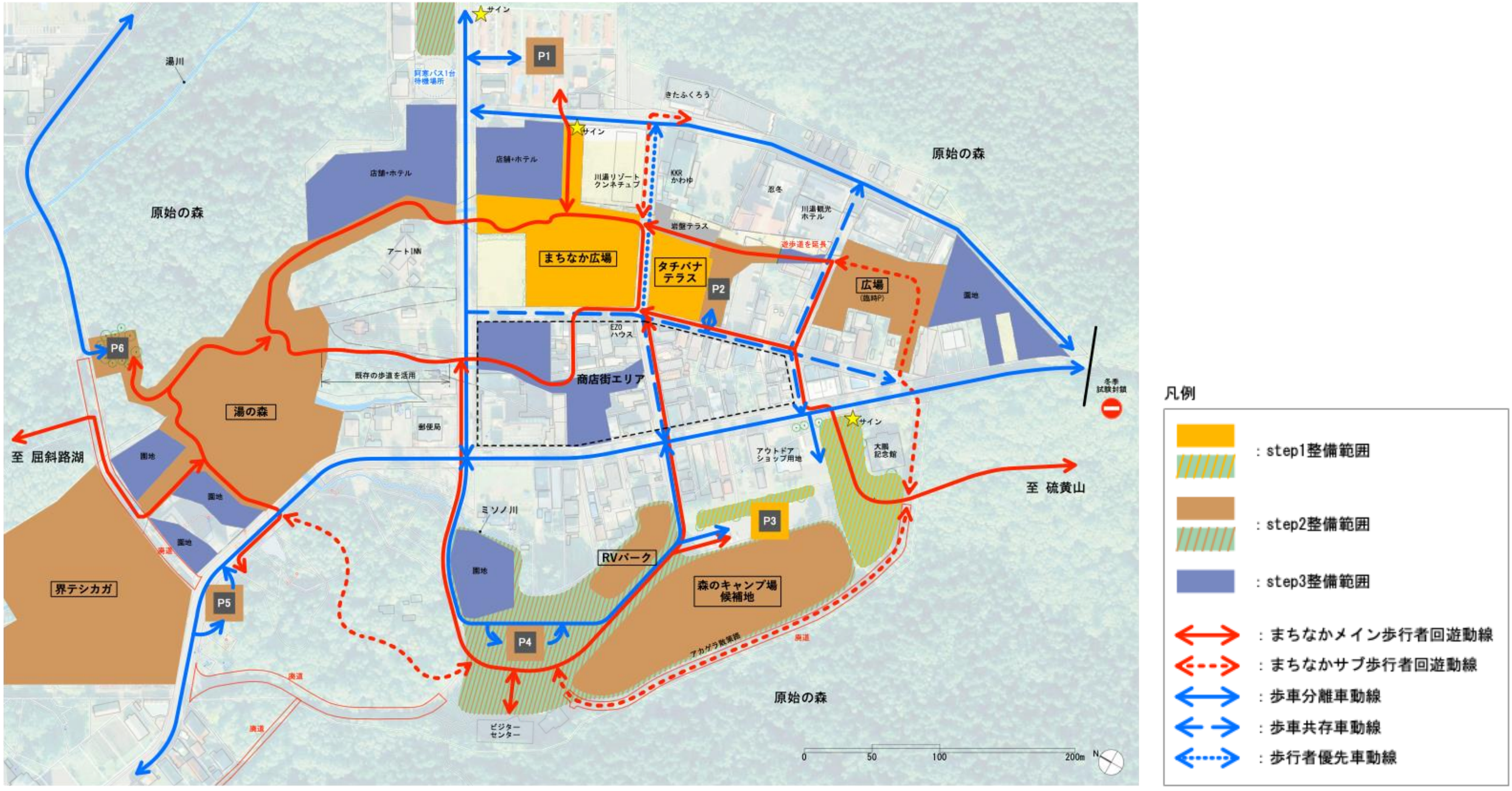
Step2（2029頃想定）



凡例

- ：step1整備範囲
- ：step2整備範囲
- ：step3整備範囲
- ：まちなかメイン歩行者回遊動線
- ：まちなかサブ歩行者回遊動線
- ：歩車分離車動線
- ：歩車共存車動線
- ：歩行者優先車動線

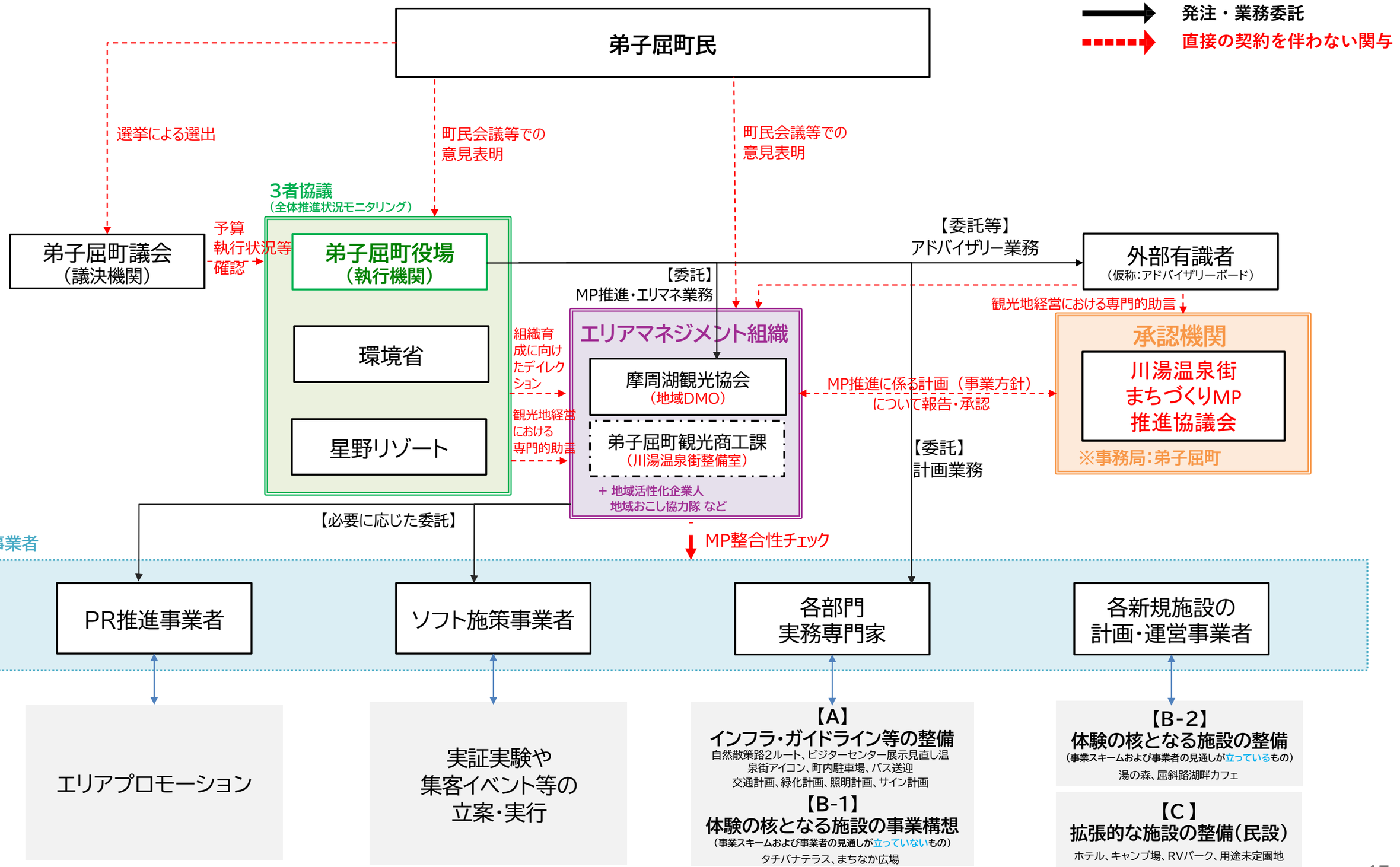
Step3（2035頃想定）



凡例

- ：step1整備範囲
- ：step2整備範囲
- ：step3整備範囲
- ：まちなかメイン歩行者回遊動線
- ：まちなかサブ歩行者回遊動線
- ：歩車分離車動線
- ：歩車共存車動線
- ：歩行者優先車動線

MP推進体制（意思決定の座組）



KPIの設定例

まちづくり戦略の重要指標 KPI	各KPIが好調な時に期待される各ステークホルダーへの好影響 事業・なりわい	自然資源	暮らし
① 宿泊者数	● 滞在の長時間化によって 街全体にお金が落ちる		
② 連泊比率	● 泊食分離によって 街ナカのお店に人が集まる	● オーバーツーリズム防止	
③ 道内／道外／INB比率	● 道内以外の客層の拡大 収益の安定	● 自然観光意欲の高い層の獲得	
④ 自然観光客数（散策路orビジターセンター利用客数）		● 自然資源の活用	
⑤ 地域が支出する環境保全対策費		● 自然資源の保全	
⑥ 税収増加			● 公共サービス・インフラ整備
⑦ 居住人口増加（流入人口or定着率）	● 若い世代の担い手増加		● 若い世代が増え街の活動が活気づく
⑧ メディア露出（広告換算額等）	● 飲食・宿・物販・ アクティビティ等の認知	● 世界水準のナショナルパーク としての認知	● 移住検討者の増加

まちづくり戦略の重要指標として8つのKPIを観測し、各指標の状況をもって戦略達成状況の評価を行う。
8つのKPIは、エリマネ組織による投資の正当性や有効性を判断する際にも判断軸として活用する。